



動労千葉

85. 7. 16

No. 1990

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）公衆（〇四七）二二七二〇七

首切り粉砕の歴史的闘いを創りだそう

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

三池の敗北を教訓化し、 動労改革マルを一掃して闘おう

反動中曽根内閣は、仁杉総裁を更迭し、監理委方針を強調する杉浦前運輸事務次官を新総裁にすえ「分割・民営化」―十万人首切りの決意を示した。われわれは、中曽根の「戦後政治の総決算」をかけた国鉄労働運動解体攻撃と対決し、首切り粉砕の歴史的たたかいを実現しなければならぬ。

「十万人の人員調整が必要」という監理委

監理委は、七月末に発表する「答申」において、「私鉄並みの生産性を前提とした国鉄事業の適正要員数を十八万一千人」としている。

そのうえで、「現在三十万七千人の実職員数は、引き続き新期採用を停止し、特退を差し引いても六二年度初めで約二十八万人と予想され、十万人の人員調整が必要」であることを明らかにした。

監理委は「十万人の人員調整」についてどう「処理」しようとしているのか。

第一に、新会社が適正要員の二割、三万二千人の余剰人員を引き継ぐ。

第二に、二万人を希望退職させる。

第三に、それでも六二年度初めで約四万六千人にのぼる余剰人員について、清算法人である旧国鉄を受け皿とし、三年間に限って職業訓練や再就職のあっせんを行うとしている。

「特別立法」なる首切り法案を許すな

そして監理委員長・亀井は、「これらの雇用対策をすすめるため」と称し、一九五九年の炭鉱合理化の際に「炭鉱離職者臨時措置法」により、十万人の首を切った例をひき出し、「特別時限立法措置」を制定するよう求めている。

まさに、十万人の国鉄労働者の首を切り、その一方で残った労働者には三五兆円の借金を背負わせ、すさまじい労働強化と賃下げを強制しようというのである。

われわれは、「去るも地獄、残るも地獄」のつを再び踏まないためにも、三池闘争の敗北を教訓化し、「分割・民営化」―十万人首切り攻撃を見すえきり、反動中曽根内閣打倒をかかげて、真正面から闘いぬかなければならない。

労使協調路線への転換が三池闘争敗北の原因

三池闘争が敗北し、十万人の首切りを許してし

まった原因は何なのか。

一九五九年、日帝・炭鉱資本は、石炭から石油へと資源エネルギー政策の転換をはかり、炭鉱の大合理化！大手十八社十八万のうち十一万人の首切りを提案し、とりわけ最大拠点の三池労組に集中攻撃を加えてきた。ところが、炭鉱労働者の英雄的決起にもかかわらず総評、炭労指導部の屈服により、三池は孤立し敗北したのである。

この敗北以降、炭労は政策転換闘争なる労使協調路線への転換をはかり、反合闘争、職場闘争から逃亡した。その結果は生産第一主義による大合理化の強行、鉱内保安対策無視によって、四五百人の死者を出した六三年の三井三池事故、山野事故（六五年、二三七人）をはじめ、今日においても三井有明事故、三菱夕張事故など、悲惨な状況が繰り返されているのである。

炭鉱資本が生き残りを受け、炭労解体を狙って大合理化攻撃をかけてきている時に、「政府・自治体に要求をつきつけ、国会・地方議会において炭労の政策に基づく立法化闘争」とか、「事前協議機関が成立するまでは石炭経協との間の首脳会談で資本の一方的首切りを排し、・・・離職する労働者の生活と炭鉱の恒久的発展に必要な施策について協議する」との政策転換闘争なるものは合理化―首切りに対する歯止めにならないばかりか、資本への屈服―協力であることを肝に命じなければならぬ。

それは同時に、「国鉄を残すため」と称し、骨身を削る「働こう運動」をもって合理化に率先して協力するのみならず、「雇用を守るため」と称し「三本柱クリアー」運動により、当局と一体となつて十万人首切りを推進する動労「本部」改革マルの一掃なくして勝利はあり得ないことを教えている。

三里塚を闘う国鉄労働者のみが「分割・民営化」―十万人首切り攻撃と対決して闘いぬける唯一の部隊であることに自信と確信を深め、いまこそ幾十倍、幾百倍の力を発揮し、国鉄労働者の最先頭で決起しようではないか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！